



# 園長だより

NO. 23 27.10.15 (Mon)

先日の園長だより NO.18にて、自己肯定感(自尊感情)には、「褒められる・認められる・見守られる」事が大切と話題にさせて頂きました。

その後の研修で具体的に褒めるポイント・褒め方について更に学んだので紹介させて頂きます。

♡ ひとつ目は… 子どもの行動そのままを実況中継する。要は褒めようと構えるのではなく、子どものありのままを、所作ひとつひとつを、口に出しみる。それだけでいいんです。

「あ〜、今、着替えようとしています!」「出来ましたー! 偉いです!」とか

「おはよう」と言ってくれました! とっても嬉しいです!」とか

「ふっ、ご飯を食べています! スプーンを持つ手も、いつの間にかしっかり持てるようになっていきます! さすがです!」など、

日常のやっている事、やろうとしている事をそのまま表現する事により、

認められ、褒められ、見守られている事になるんですね。

♡ もうひとつは、会話の中で特に褒める時に、その子の名前を言ってあげる事。

「〇〇ちゃん靴を自分で履けて、偉いね。」「〇〇君、頑張ったね。」  
ちよとした言葉掛けの一言に、その子の名前を添えて特定してあげる事により、グッとその子の心には、<sup>その</sup>言葉が滲み込みます。

そんな事を学んだ矢先の先週のある朝、私が南門で通園バスを迎えつつ、子ども達と「おはよう」と朝の挨拶を交していました。

するとその中のひとりの子がふいに「園長先生おはよう!」と言ってくれたんです。その時、実は自分でも驚く程私の心にそのたったひと言の「おはよう」が心地良く、温かく響いたんです。あっこれだ! 相手を指定してたったひと言かえるだけで、二人にもストレートに伝わるものかと、私自身が実際に嬉しく体感し、「〇〇ちゃん園長先生おはようって言ってくれてありがとう! 〇〇ちゃんおはようっ」と改めて朝の挨拶を交わしました。

相手を認めよう、いっ所を見つけようとしている姿勢。対子どもだけでなく、日常の中でも、

家族・友人など誰に対してもその視点を持つ

いると、自然と自分も温かくなってきて、更にそれを口に出して伝える事により、心が豊かに柔くなる気がします。実況中継も個別に相手の名前を言う事も、時を要せず、すぐに出来る事ですね。

忙しい日常かと思いますが、そんな事を <sup>上記の</sup> ちよと意識してみませんか。

きっと、子どもの愛らしい、優しい、笑顔になって返ってくると思いますよ!

以来、朝の通園バスから降りてくる子達に「〇〇ちゃんおはよう」と必ずその子の名前を添えて声を掛けているんですよ

